

野田 九条通信

2011年12月 72号

「野田・九条の会」事務局

TEL 7122-0502

野田九条の会ホームページ

<http://www17.ocn.ne.jp/~art.9/>

脱原発 1,000 万人署名集約します！

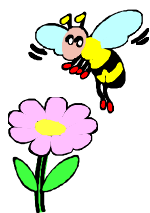


十月から野田・九条の会として集めている脱原発の署名は、もう出していただけましたか。この十二月号通信配布と同時に第一次集約とします。全国で1千万人の署名という十三人に一人という数になるそうです。野田市の人口では・・・と計算してみると大変な数になります。とりあえずここで集計します。まだ手元にあるかたは忘れずに出してください。千葉県で五十万人の署名を集めることを目的に緩やかなネットワークを結成する動きもあります。これからの動きは十二月の定例会で話し合います。

「ミツバチの羽音と地球の回転」 映画に150人参加

十一月二十三日中央公民館と南コミュニティセンターで上映した映画会には百五十人余の方々の参加がありました。二時間一五分という長い映画でしたが、短く感じたという感想をいただいたほど、祝島の漁業と農業での暮らしがまっとうで豊かであること、原発を進めお金があることが豊かであるという現代の私たちの意識の薄っぺらさに改めて気がつかされた感じがします。そしてスウェーデンの自然エネルギーを進めている人々から、「日本は自然エネルギーがいっぱいあるのにどうしてやらないの？」という率直な言葉に「そうよねー」とつぶやきました。もっと多くの人たちに見て欲しかったとのいつもの想いも有りましたが、ネットでも参加したという若い方もあり、少し希望もわきます。

上映にあたって、チラシの新聞折り込みに加え、南、けやき、川間、関宿それぞれの地域九条の会での地域家庭へのチラシ配布、協力券の販売、上映技術の提供など、たくさんのご協力ありがとうございました。



編集後記
今年、四月に予定していた茨城の百里基地へのバスツアーは三月十一日の大震災で中止。原発事故、放射能汚染と続く激動と不安。八月二〇、二一日文化会館で核兵器や原発を取り上げた「平和の集い」を実行委員会のメンバーとして開催、定例会ではミニ学習会、脱原発集会デモ、署名活動など行動せざるを得ない年でした。この九条通信のレイアウトは九月号から坂口さんに変わりました。いかがでしょうか。来年はどんな年になるのか、憲法を基本にした生活をじっくり実践したいものです。
(編集担当 田口、富村)

今月の予定

- 12月4日(日) 1時半～
南部梅郷公民館講堂
講演会:「子どもたちを放射能から守るために」
講師: 『週刊金曜日』発行人 北村肇氏
ドキュメンタリー映画上映
「子供たちを放射能から守れ」福島のとたかい
- 12月9日(金) 4時～5時
川間駅南口
「サヨナラ原発署名行動」
- 12月10日(土) 2時～
櫻のホール4階和室
「野田・九条の会」定例会
今年の活動を振り返って、
来年の活動を話し合います。

憲法9条は守られているか？

11月3日は65年前の1946年に日本国憲法が公布された日です。15年間にわたった戦争が終わって、その残酷悲惨な戦争への反省から創られました。けれど無惨な戦争時代を知っている人たちも少数になってしまい、戦争放棄の平和憲法の有難さ大切さへの関心も薄れがちになっています。

特に政治家の方々には憲法の原点に立ってもらいたいものです。沖縄の米軍基地の問題、武器輸出三原則の見直し(ミサイルの日米共同開発・第三国への輸出)、非核三原則の見直し(米軍の核持ち込み)や、派兵恒久法立法化への策動など、九条違反のことばかりです。

◆ 普天間基地は撤去を

民家や学校、幼稚園も近くにあって、騒音と危険にさらされ、大きな墜落事故もあった米軍普天間基地を移転させる問題は、2年前に民主党が政権を取ったときの公約で、移転は国外か県外というのが裏切られ、自民政権が決めたとおりの辺野古移設が、日米合意ということになり、2年間に3人替わった首相がそれを固執しています。

アメリカへ行ってオバマ大統領と会っても、首相は誰も沖縄の強い反対意見を伝えて交渉しようとはせず、ただ「日米合意は大切です」とか「出来るだけ早く進めます」と言うばかりです。

10月25日に来日したパネッタ米国防長官の時も日本側の言うことは同じでした。加えて防衛相は、新滑走路の建設に必要な環境影響評価(アセスメント)を年内に沖縄県に渡す事をアメリカ側に伝えたということです。そのあとは、手続きを経て来年6月頃は埋め立ての申請をする予定のようですが、沖縄側は基地建設絶対反対を固く誓っているから不可能でしょう。

この問題は日本全体の問題ですから、沖縄だけに任せないで多数の国民が沖縄を援けなければなりません。

◆ 動き出した憲法審査会

憲法改定を審議する衆参両院の委員会。委員数は50人で各党から比例で選ばれるが、改憲反対論者は少数になるので、問題の委員会。注意深く見守りましょう。

『川間九条の会通信』(編集責任 森本房子さん)より転載

「九条の会」アピールから

私たちは、平和を求める世界の市民と手をつなぐために、あらためて憲法九条を激動する世界に輝かせたいと考えます。そのためには、この国の主権者である国民一人ひとりが、九条を持つ日本国憲法を、自分のものとして選び直し、日々行使していくことが必要です。それは、国の未来の在り方に対する、主権者の責任です。日本と世界の平和な未来のために、日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ、「改憲」のくわだてを阻むため、一人ひとりができる、あらゆる努力を、いますぐ始めることを訴えます。(後半部を抄出)

2004年6月10日

井上 ひさし(作家)、梅原 猛(哲学者)、大江 健三郎(作家)、奥平 康弘(憲法研究者)、小田 実(作家) 加藤 周一(評論家)、澤地 久枝(作家)、鶴見 俊輔(哲学者)、三木 睦子(国連婦人会)